

令和 3年度 みどり保育園 自己評価表

令和 4年 3月 30日 評価者氏名 園長 吉井 東行
報告者氏名 主幹保育教諭 吉井 玲子

1. 本園の教育・保育目標

保育理念	みどり保育園は、乳幼児が生涯にわたる人間形成の基礎を培う大切なこの時期に、一人ひとりを優しく温かい目で見守ることを常に心がけております。 友だちと一緒に生活をするこの保育園が、子どもたちにとって家庭となるようくつろげる生活環境に配慮し、のびのびと楽しく成長できるよう保育しております。 子どもたちの豊かな心とのびゆく姿を大切に、保護者の皆様と手を取り合っるとともに成長を願いながら、地域のお祭りや老人福祉施設などの慰問を通し、地域との交流を深めていきたいと思っております。
教育・保育方針	健康な心と体をもち、思いやりのある子 自主的に行動できる子
教育・保育の目標	・のびのびとした元気のよい子 ・だれとでも仲良くあそべる子 ・自分のことは自分でできる子 ・人に迷惑をかけない子 (幼保小中一貫教育に鑑み、こども園の教育・保育で育む資質・能力を小学校に繋いでいきます)

2. 評価項目

教育課程・指導	「こども園教育・保育要領」を確認しながら、「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」の作成をし、養護と教育の一体的な展開が出来るよう環境を整え保育を行い、子どもたちの姿に合わせ適宜、見直しをする。後に評価・課題・指導計画の作成の参考にする。
保健管理	嘱託医による内科検診、歯科検診を各年2回行い、保護者に結果を知らせ、虫歯がある場合は治療を勧め治療終了の確認を行う。登園時及び保育中の健康状態を観察、0歳児・1歳児クラスは睡眠時の状態を観察記録票に記録する。学校薬剤師による学校環境衛生定期検査・学校給食衛生管理定期検査を行い、阿賀野市福祉課へ報告する。
特別支援教育	職員会議等で情報を共有。保育の内容に配慮しつつ、環境を整え他の園児との関わりによる成長・発達を促す。保護者や福祉課・保健師、「こころとことばの相談室」等の関係機関との連携を取りながら、助言を頂き、家庭・各機関・園とが一体となり、その子がその子らしく過ごせ、また最善なサポートが出来るようにする。
組織運営	保護者には「入園のしおり」を配布し園の方針・災害時の対応等周知。職員には就業規則を周知。有資格の職員を行政からの規則通りに配置し、研修や休暇に対応出来るよう、また安全な保育ができるよう各クラス複数担任とする。経験豊富な職員を主幹やリーダーに配置し、より良い保育環境づくりを行う。また、園長・主幹保育教諭との懇談の時間を設け、日頃の保育の振り返りや困っていることの改善、勤務についての相談ができるようにする。
研修 (資質向上の取り組み)	教育・保育に従事する職員の研修会への参加、各研修会の報告、情報の共有、園内研修を行い、資質向上に努める。また、キャリアアップ講習会、幼稚園免許更新講習参加への推奨をし、順に修了証を獲得する。県立新潟大学梅田優子氏をアドバイザーに研修を行い保育の質向上を行う。
教育目標 学校 評価	「健康な心を持ち思いやりのある子」「自主的に行動できる子」を目標にして、一人ひとりを大切にした教育に取り組む。保育の質と安全の向上。0歳児から小中高校へと途切れない保育の連携。子育て支援と地域社会との連携を図る。各年齢別の目標と計画を作成。「こども園教育・保育要領」を確認しながら、指導計画を作成し、養護と教育の一体的な展開が出来るよう環境を整える。子どもたちの様子に合わせた見直しを行う。その記録を評価、課題を分析し次の指導計画へ反映する。
情報提供	みどり保育園ホームページに情報の公開。保護者には園便り、クラス便り、その都度の連絡事項の配布。保育アプリ「コドモン」を使用。ホームページにて園の紹介、行事、苦情、相談について、また資産及び決算、園の自己評価等を掲載している。

保護者地域住民との連携	保護者の方と連携し保育・教育を行っていく。保護者のご理解・ご協力を頂けるよう、日頃からコミュニケーションをとりながら、丁寧に説明と対応を行う。保護者総会や資料の配布により、年間行事予定を発表し、毎月のお便りや案内にて行事への参加、協力を呼び掛ける。日頃から送迎時の声掛け等で意見を把握。ご意見等頂いたときは迅速に対応。「苦情解決体制」を園内に掲示。地域住民には園の行事への参加案内。地元の行事への園児の参加。火事・地震等の災害時の避難の協力の要請等をお願いしている。
子育て支援	子育て支援に積極的に取り組む。育児の悩みにはすぐに対応。少しでも保護者の方がホッとできるような雰囲気や傾聴し、保護者の気持ちに寄り添う。主幹保育教諭が中心となり未就園児さん対象の「にこにこクラブ」を実施。遊びの場や行事への参加の機会を設けて、親子の楽しみや安らぎの場になるようにしている。その他、育児相談にも随時対応。
預かり保育	一時預かり保育事業対応の職員を配置し、実施している。
教育環境整備	職員会議や研修等において「こども園教育・保育要領」や「幼児期に育てたい10の姿」を確認しながら、指導計画の作成及び実践の振り返りを行う。季節に合わせ、様々な体験や経験が出来るような教育・保育内容になっているか職員間で見直し、課題を明確にしながら、理解を深める。スイミングスクール、運動遊び教室、英語教室を実施。各講師と連携し、子どもたちの姿と興味に合わせた教育を提供し、成長を促す。

3. 課題と検討

<p>今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、保育・教育にも大きな影響が出た1年だった。日々の保育の中では最大限の感染予防対策を行ってきた。園児の体調管理・風邪症状があるときの対応のお願い・園の消毒・おもちゃの消毒・換気・クラス別での保育・4・5歳児の黙食指導・2歳児以上のパーテーション使用等、できることはすべて行ってきた。しかし、市内の感染が増加すると園内でも感染が確認され、クラス閉鎖等の措置が発生した。保護者の方はお忙しい中対応しなければならず、大変だったと思う。保護者の皆様のご協力に感謝している。</p> <p>「こども園教育・保育要領」を確認しながら、「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」を作成し、「幼児期に育てたい10の姿」を目指し、養護と教育の一体的な展開が出来るよう環境を整え保育を行うことができた。コロナ禍に伴い、老人施設慰問、地域の祭の参加などが出来ず、また、行事における参加人数の制限や内容の変更等、子どもたちに経験させてあげたいことがさせてあげられないという現実、保育教諭は悩むことが多かったが、その中でも、感染症拡大前に、異年齢で共同制作に取り組むことが出来たことは良かった。日々当たり前に来ていたことが出来なくなったという今の状況に早い終息を願うばかりである。</p> <p>嘱託医による内科検診、歯科検診を各年2回行い、保護者に結果を知らせ、虫歯がある場合は治療を勧め治療終了の確認を行った。コロナ禍に伴うマスク着用や外出自粛により、不規則な生活になりがちであり、おやつや摂取が多くなったりと虫歯の増加につながっている状況がある。園では感染症対策を行いながら、歯磨きを行い4・5歳児はフッ素もしっかりと行うことができた。登園時及び保育中の健康状態を観察し、気になる症状があれば受診を促し健康管理に努めた。0歳児・1歳児クラスは睡眠時の状態をしっかりと観察し記録できた。</p> <p>特別支援教育では、クラスの一員としてその子がその子らしく過ごせるよう丁寧にサポートすることが出来た。また「こころとことばの相談室」や保健師等の関係機関との連携を取りながら、助言を頂き、家庭・各機関・園とが一体となり行うことが出来たので良かった。</p> <p>組織運営としてはより良い保育、より安全な保育を目指し、職員体制を整え保育・教育を行うことが出来た。コロナ禍により研修に参加できず残念ではあったが、園内で話し合う機会を設けたり、考えていながら全職員の共通理解を図ることができた。各小学校とも連絡を取り合いながら連携を図ることもできた。</p> <p>子育て支援では、コロナ禍に伴い、未就園児対象の「にこにこクラブ」回数を少なくしての開催となってしまった。もっと足を運んでもらえるようなものにしていきたいと考えているが、今後の感染状況を踏まえて計画していきたい。子育ての悩みがある保護者の方に対し、すぐに相談に応じ少しでも気持ちが楽になるよう努めることが出来ていた。</p> <p>職員会議や園内研修等を行い、季節に合わせ、できる限り様々な体験や経験が出来るよう感染対策・安全対策をねりながら保育できた。スイミングスクール、運動遊び教室、英語教室は各講師と連携し、感染症対策を講じながら今までと変わらず体験できたので良かった。</p> <p>来年度も新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、保護者の方が安心してお子さんを預けられるよう努めていきたい。今後もコロナ禍でも「子どもの最善」を考えて保育・教育を行っていきたい。</p>
